

## 保育実習における学生の意識について（続）

### —— 主に保育所を中心に ——

北 澤 房 子

はじめに

本学では、保育資格と幼稚園教諭2級免許状を、同時に取得できるしくみになっており、学生に取っては、大きな魅力になっている。

しかしその反面、一応資格を取っておくという安易な姿勢の学生がいることも、事実である。一応資格を取っておくという程度の学生は、どうしてもその姿勢のどこかに、安易な考え方がついてまわり、実習先に迷惑をかけることがある。

そのため前回の報告（清泉女学院短期大学研究紀要第10号以下前報と略す）では、専門職希望者と一般企業希望者の保育実習前後に視点を置き、意識の変化を探った。その結果、一般企業を希望している実習生の実習前後の意識の変化は、「他者信頼」、「自己公開性」、「身体的エネルギー」、「多能性」について実習後評価が下がり有意差が認められた。

そこで、平成4年度夏期保育実習事前指導の際、特に下記の3ポイントに重点を置き、個々の学生と何回か面接を重ね、指導に当たった。まず、

1. 実習の心構えについて、保育実習の社会的意義から説明し、再確認させた。
2. 実習園選定、実習期間の設定に際し、学校始動型から学生始動型に切り替えた。学

生の自主性を重んじ、実習を希望する者は、実習園、実習期間決定までのプロセスも実習のうちであることを認識し、各自の責任のもとに行なう。学校は専らそれを援助する姿勢をとった。実習についての内諾が得られた後、学校から実習依頼書を実習園長宛に提出した。

3. 細菌検査について、前回までは、実習園より要請があった場合のみ細菌検査をしていたが、実習への意気込み、熱意を示すために、実習生全員に行った。

以上、平成4年度夏期保育実習事前指導を終えてから本調査に入った。本調査の目的は以下の5点である。

1. 保育（主に保育所、以下保育と略す）実習生の保育実習前と保育実習後における自己認知尺度を用いてアンケート調査をし、前報の結果と比較検討の上、実習生の大きな意識の傾向をみる。
2. 専門職に就職を希望する実習生と一般企業へ就職を希望する実習生とに分け、専門職を希望する実習生の実習前と実習後における意識の変化を示す。
3. 一般企業を希望する実習生の実習前と実習後における意識の変化を前報「他者信頼」に注目して示す。
4. 専門職を希望する実習生と一般企業を希望する実習生の、実習前における意識の差

を前報「自己公開性」に注目して示す。

5. 専門職を希望する実習生と一般企業を希望する実習生の実習後における意識の差を前報「自己公開性」,「他者信頼」,「身体的エネルギー」,「多能性」に注目して示す。  
以上の意識の変化、意識の差を比較検討し、今後の保育実習事前指導についての参考資料としたい。

## 1. 調査の方法

### (1) 調査の対象

本学幼児教育科、1991（平成3）年入学生で平成4年度夏期保育実習（平成4年7月27日～9月12日）予定者70名であった。

### (2) 調査の方法

保育実習が始まる直前の1992（平成4）年7月8日に第1回目の自己認知尺度のアンケート調査を実施し、保育実習終了後の9月25日に第2回目の自己認知尺度のアンケート調査を実施した。

### (3) 調査項目

清泉女学院短期大学研究紀要第10号 p. 2を参照されたい。

## 2. 結果および考察

測定値

表1 アンケート回答結果（平均値）

調査 項目	実習前			実習後		
	全員 N=70	専門職希望 N=46	専門職以外 N=24	全員 N=70	専門職希望 N=46	専門職以外 N=24
1	6.04	5.85	6.42	6.37	6.41	6.29
2	5.20	4.98	5.63	5.50	5.28	5.92
3	5.06	4.96	5.25	5.04	4.80	5.50
4	6.43	6.22	6.83	6.59	6.35	7.04
5	6.96	6.78	7.29	6.84	6.63	7.25
6	5.73	5.57	6.04	6.04	5.89	6.33
7	5.53	5.59	5.42	6.10	6.02	6.25
8	6.54	6.48	6.67	6.70	6.61	6.88
9	6.07	6.00	6.21	6.69	6.50	7.04
10	5.67	5.85	5.33	6.00	6.04	5.92
11	4.86	4.70	5.17	5.09	4.91	5.42
12	5.34	5.33	5.38	5.66	5.63	5.71
13	4.21	4.11	4.42	4.60	4.35	5.08
14	4.81	4.74	4.96	4.86	4.76	5.04
15	5.17	5.11	5.29	5.21	4.96	5.71
16	6.97	6.93	7.04	6.79	6.63	7.08
17	7.00	7.04	6.92	6.99	6.96	7.04
18	6.26	6.33	6.13	6.30	6.30	6.29
19	6.01	6.15	5.75	5.69	5.67	5.71
20	5.90	5.70	6.29	5.86	5.48	6.58
21	6.80	6.76	6.88	6.84	6.78	6.96

表 2 - 1 実習前後における意識の変化

調査 項目	全員 N = 7 0			専門職希望 N = 4 6			一般企業希望 N = 2 4		
	実習前 (A)	実習後 (B)	差 (B)-(A)	実習前 (A)	実習後 (B)	差 (B)-(A)	実習前 (A)	実習後 (B)	差 (B)-(A)
1	6.04	6.37	0.33	5.85	6.41	0.57*	6.42	6.29	-0.13
2	5.20	5.50	0.30	4.98	5.28	0.30	5.63	5.92	0.29
3	5.06	5.04	-0.02	4.96	4.80	-0.16	5.25	5.50	0.25
4	6.43	6.59	0.16	6.22	6.35	0.13	6.83	7.04	0.21
5	6.96	6.84	-0.12	6.78	6.63	-0.15	7.29	7.25	-0.04
6	5.73	6.04	0.31	5.57	5.89	0.33	6.04	6.33	0.29
7	5.53	6.10	0.57*	5.59	6.02	0.43	5.42	6.25	0.83*
8	6.54	6.70	0.16	6.48	6.61	0.13	6.67	6.88	0.21
9	6.07	6.69	0.61**	6.00	6.50	0.50	6.21	7.04	0.83*
10	5.67	6.00	0.33	5.85	6.04	0.20	5.33	5.92	0.58
11	4.86	5.09	0.23	4.70	4.91	0.22	5.17	5.42	0.25
12	5.34	5.66	0.31	5.33	5.63	0.30	5.38	5.71	0.33
13	4.21	4.60	0.39	4.11	4.35	0.24	4.42	5.08	0.67
14	4.81	4.86	0.04	4.74	4.76	0.02	4.96	5.04	0.08
15	5.17	5.21	0.04	5.11	4.96	-0.15	5.29	5.71	0.42
16	6.97	6.79	-0.20	6.93	6.63	-0.30	7.04	7.08	0.04
17	7.00	6.99	-0.01	7.04	6.96	-0.08	6.92	7.04	0.13
18	6.26	6.30	0.04	6.33	6.30	-0.03	6.13	6.29	0.17
19	6.01	5.69	-0.32	6.15	5.67	-0.48	5.75	5.71	-0.04
20	5.90	5.86	-0.04	5.70	5.48	-0.22	6.29	6.58	0.29
21	6.80	6.84	0.04	6.76	6.78	0.02	6.88	6.96	0.08

\* は 5 % 水準で有意差有り

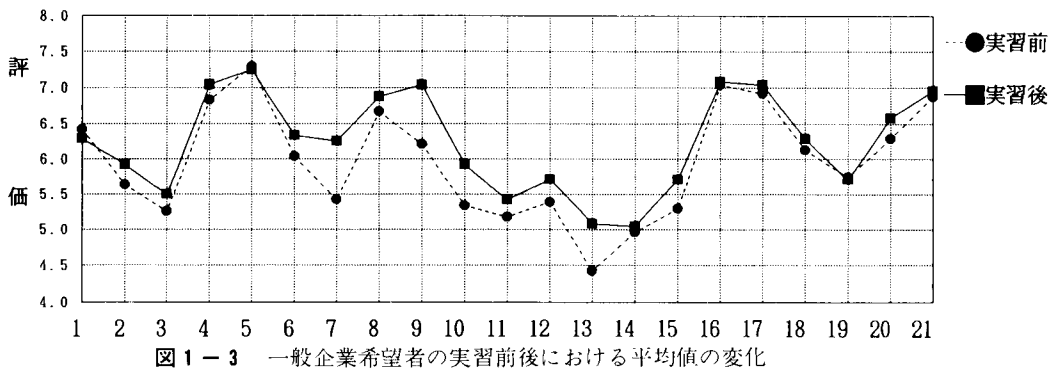
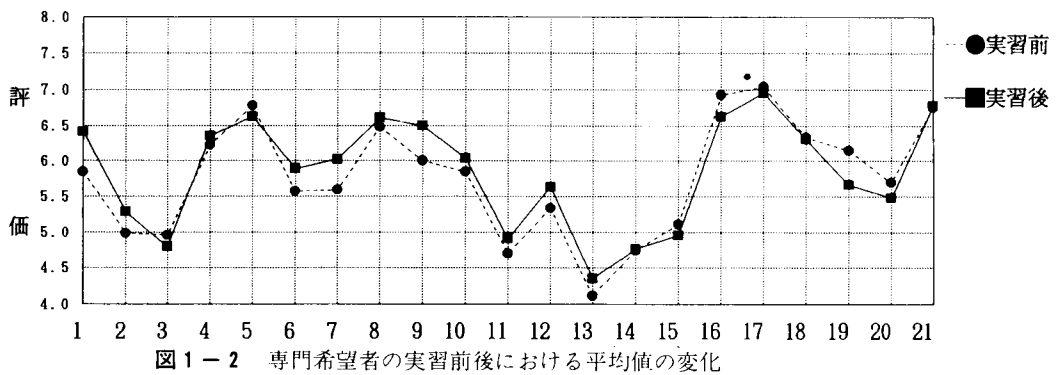
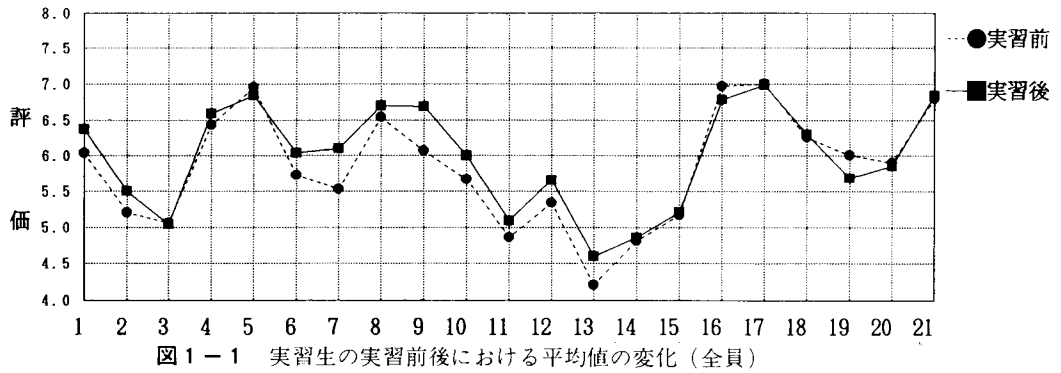
\*\* は 1 % 水準で有意差有り

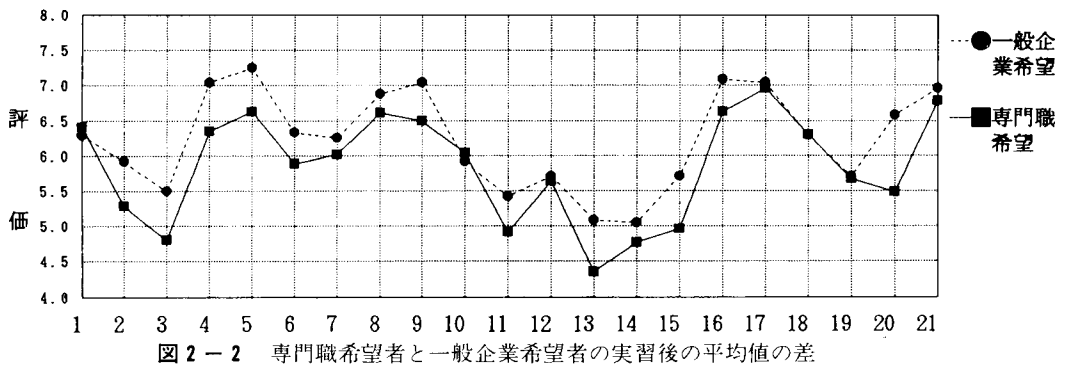
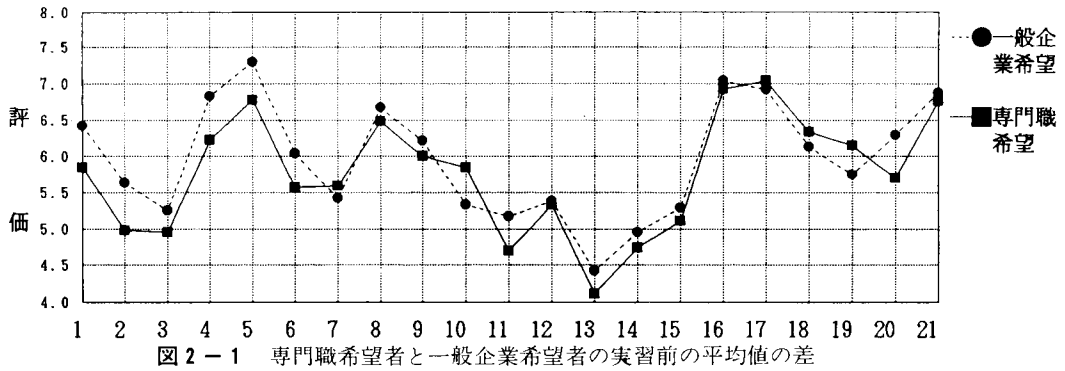
表 2-2 専門職希望者と一般企業希望者との意識差

調査 項目	実習前			実習後		
	専門職希望 (A)	一般企業希望 (B)	差 (A)-(B)	専門職希望 (A)	一般企業希望 (B)	差 (A)-(B)
1	5. 8 5	6. 4 2	- 0. 5 7	6. 4 1	6. 2 9	0. 1 2
2	4. 9 8	5. 6 3	- 0. 6 5	5. 2 8	5. 9 2	- 0. 6 3
3	4. 9 6	5. 2 5	- 0. 2 9	4. 8 0	5. 5 0	- 0. 7 0
4	6. 2 2	6. 8 3	- 0. 6 2	6. 3 5	7. 0 4	- 0. 6 9*
5	6. 7 8	7. 2 9	- 0. 5 1	6. 6 3	7. 2 5	- 0. 6 2
6	5. 5 7	6. 0 4	- 0. 4 8	5. 8 9	6. 3 3	- 0. 4 4
7	5. 5 9	5. 4 2	0. 1 7	6. 0 2	6. 2 5	- 0. 2 3
8	6. 4 8	6. 6 7	- 0. 1 9	6. 6 1	6. 8 8	- 0. 2 7
9	6. 0 0	6. 2 1	- 0. 2 1	6. 5 0	7. 0 4	- 0. 5 4
10	5. 8 5	5. 3 3	0. 5 2	6. 0 4	5. 9 2	0. 1 2
11	4. 7 0	5. 1 7	- 0. 4 7	4. 9 1	5. 4 2	- 0. 5 0
12	5. 3 3	5. 3 8	- 0. 0 5	5. 6 3	5. 7 1	- 0. 0 8
13	4. 1 1	4. 4 2	- 0. 3 1	4. 3 5	5. 0 8	- 0. 7 4
14	4. 7 4	4. 9 6	- 0. 2 2	4. 7 6	5. 0 4	- 0. 2 8
15	5. 1 1	5. 2 9	- 0. 1 8	4. 9 6	5. 7 1	- 0. 7 5
16	6. 9 3	7. 0 4	- 0. 1 1	6. 6 3	7. 0 8	- 0. 4 5
17	7. 0 4	6. 9 2	0. 1 2	6. 9 6	7. 0 4	- 0. 0 9
18	6. 3 3	6. 1 3	0. 2 0	6. 3 0	6. 2 9	0. 0 1
19	6. 1 5	5. 7 5	0. 4 0	5. 6 7	5. 7 1	- 0. 0 3
20	5. 7 0	6. 2 9	- 0. 5 9	5. 4 8	6. 5 8	- 1. 1 1**
21	6. 7 6	6. 8 8	- 0. 1 1	6. 7 8	6. 9 6	- 0. 1 8

\* は 5 %水準で有意差有り

\*\* は 1 %水準で有意差有り





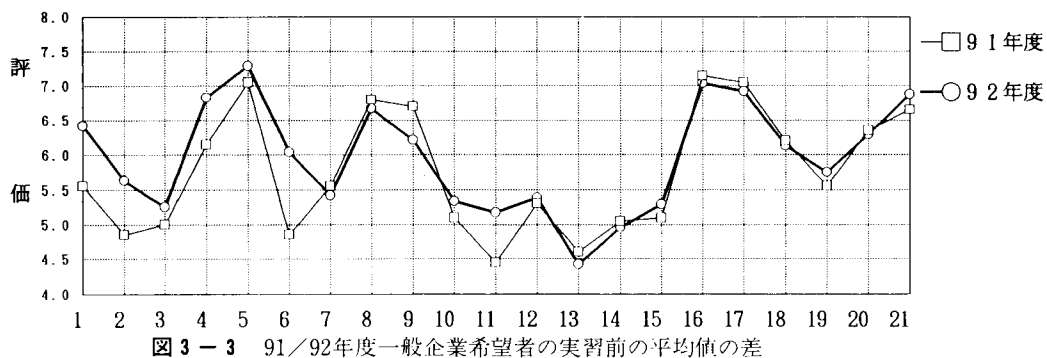
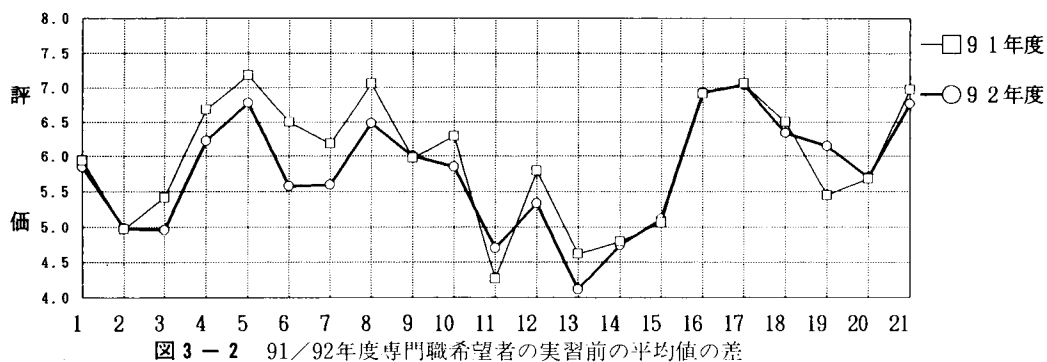
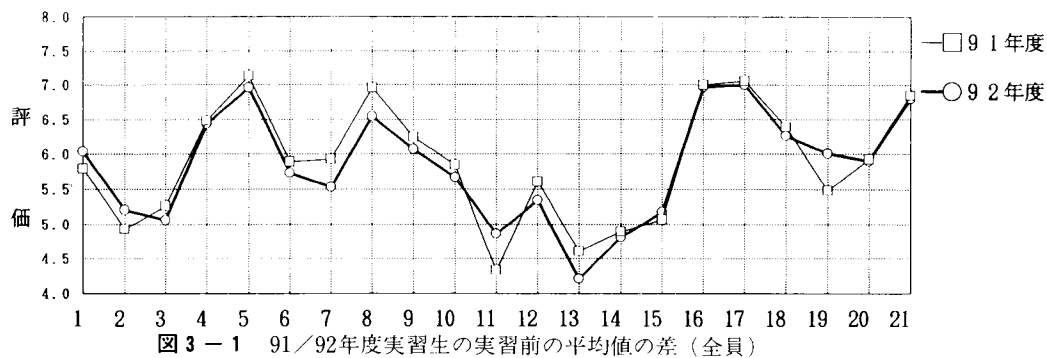






図4-1 91/92年度実習生の実習後の平均値の差

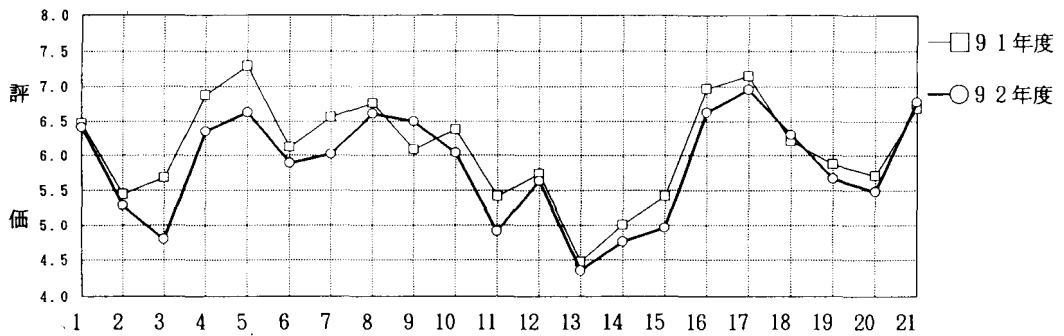


図4-2 91/92年度専門職希望者の実習後の平均値の差



図4-3 91/92年度一般企業希望者の実習後の平均値の差

### (1) 保育実習生の保育実習前と実習後の意識の変化

表2-1、図1-1は、実習前後の自己認知尺度の回答の平均値を表と図にしたものであり、図3-1は1991、1992年度実習生の実習前の平均値の差、図4-1は1991、1992年度実習生の実習後の平均値の差を図に示したものである。

実習後評価が上がった項目は、1項「自己理解」、2項「自尊心」、4項「人に愛情を示す度合」、6項「自己公開性」、7項「心の平穏」、8項「他者信頼」、9項「願望」、10項「身体的エネルギー」、11項「多能性」、12項「創造性」、13項「怒りの表現の仕方」、14項「敵意の受けとめ方」、15項「自己の思想の表現の明確さ」、18項「他者と自己との相違に対する寛容さ」、21項「将来の展望」であった。

7項「心の平穏」については、満足度が増え、有意水準5%で有意差が認められた。『(以下検定はすべて両側検定である。)』

また、9項「願望」でも主体的に幼児と係わることにより、新しい課題への取り組み、意欲等も増え有意水準1%で有意差が認められた。

実習を通して自己を発揮すること、自分らしさを感じる体験をすることは重要である。その体験の具体的なものとして、

- 実習生が卒園した母園であったため、園長先生はじめ先生方もお世話になった方々で、自分の家に帰ったような温かさを感じた。
- 子ども達が素直で、伸び伸びとしていて可愛いかった。
- 先生方が子ども達に愛情を持って、できるだけ多くの子ども達と接するよう心掛けていたようだった。

○ 保育園は、幼稚園と比べゆったりとデイリープログラムが組まれ、子ども達も時間に追われることなく、伸び伸びとしていた。それらを目の当りにし、保育の原点を見たような気がした。

以上のような点が実習後の体験として上がった。

また、実習全体の印象（ア、「とても良い」イ、「良い」ウ、「普通」エ、「あまり良くない」オ、「良くない」）を実習後実習生に質問したところ、ア、「とても良い」45%、イ、「良い」33%、ウ、「普通」19%、エ、「あまり良くない」3%、オ、「良くない」0%、という結果であった。特にこの実習全体の印象として、97%の学生が、普通、良い、とても良いという印象を持っており、これは、実習生自身の努力はいうまでもないが、実習受け入れ側の良きご指導、協力の結果ではないかと思う。

### (2) 専門職希望者の実習前後における平均値の変化

表2-1、図1-2は、専門職希望者の実習前後における平均値を表と図にしたものである。図3-2は1991、1992年度専門職希望者の実習前の平均値の差、図4-2は1991、1992年度専門職希望者の実習後の平均値の差を図にしたものである。

実習後評価が上がった項目は、1項「自己理解」、2項「自尊心」、4項「人に愛情を示す度合」、6項「自己公開性」、7項「心の平穏」、8項「他者信頼」、9項「願望」、10項「身体的エネルギー」、11項「多能性」、12項「創造性」、13項「怒りの表現の仕方」、14項「敵意の受けとめ方」、21項「将来の展望」以上13項目にわたり実習後評価が上がった。1項「自己理解」については、実習後自己理解が深ま

り、有意水準5%で有意差が認められた。

本学における保育実習の事前指導では、学生の実習への不安を取り除くため、実習の実際について、できるだけ多くの事例を取り上げ興味を持たせながら指導を進めている。

また、「実習とは何か」「その意義と目的は何か」という学生にとっては、あまり興味をもてない課題についても、重点的に指導するよう心掛けている。

実習においては、実際に子供達、保育者に触れる中で、各自の人格や人間性が試されたり、また、主体的な活動を通し、保育者としてばかりでなく、人間としての新しい自己理解がより深く出来たのではないかと思う。

ちなみに、専門職に就職を希望する学生に、自分が専門職と決めた理由は何かと質問したところ、1、「子供が好き」、2、「やり甲斐があり、子供の可能性を引き出せる夢のある仕事」であるという答えが返ってきた。保育者として、子供に対する愛情や保育に対する情熱、保育者としての使命感や責任感など、望ましい保育者としての条件がにじみ出てくるような答えであった。

### (3) 一般企業希望者の実習前後における平均値の変化と前報との比較

表2-1、図1-3は一般企業希望者の実習前後における平均値を、表と図に示したものである。図3-3は1991、1992年度一般企業希望者の実習前の平均値の差、図4-3は1991、1992年度一般企業希望者の実習後の平均値の差を図にしたものである。

実習後評価が上がった項目は、2項「自尊心」、3項「失敗を恐れぬ勇氣」、4項「人に愛情を示す度合」、6項「自己公開性」、7項「心の平穩」、8項「他者信頼」、9項「願

望」、10項「身体的エネルギー」、11項「多能性」、12項「創造性」、13項「怒りの表現の仕方」、14項「敵意の受けとめ方」、15項「自己の思想の表現の明確さ」、16項「傾聴力（積極的共感的理解）」、17項「自己の行動に対する意見、評価への反応」、18項「他者と自己との相違に対する寛容さ」、20項「独立心」、21項「将来の展望」と殆どの項目において、実習後評価が上がり、効果的な実習であったことがうかがえる。さらに、注目すべき事実として、7項「心の平穩」では、今まで机上で学んだ子供の姿を、生身の子供から学びとることで、満足度が増し、落ち着いて実習に当たったようである。9項「願望」でも、子供たちが日々どのように遊びまた生活しているのか、良く観察したり、体得したりしているうちに、さらに願望が高まり、それぞれ有意水準5%で有意差が認められた。以上示された事項について、前報の結果と比較考察してみると、8項「他者信頼」について、前報では実習後やや信頼感が薄れ、有意水準5%で有意差が認められたが、今回は認められなかった。前報の実習後信頼感が薄れた原因は、卒業後の進路に直結しない保母資格取得のための実習であり、その事を引き目に感じていたことが大きな原因の1つであった。そこで今回はその解決策として、実習園選定等、実習にかかわるできるだけ多くの事を学生自身に行なわせた。

その結果、学生が実習を自分自身の問題として、真剣に取り組めた。また、実習に向けての準備段階で、実習園の先生に何度か会い、指導して頂く過程で、実習への心構え等が、十分出来、その上さらに未知のものへの知的好奇心が出て来た結果ではないかと思う。

また、一般企業希望者に一般企業を受けよ

うと決めた理由をただすと、

- 専門職は体力的負担が大きく、自分には無理だと思う。
- 指導力が無く、単に“子供が好き”だけでは務まらない。
- ピアノが不得意である。
- 保育所に就職を希望していたが、希望していた所からの求人が無った。
- 専門職に就きたいが、現状で自分を活かす道は、企業の方が良い。今まで学んだ事を企業で活かしたい。

以上のように健康に関すること、技術的なものの不足等が原因であることがわかった。

#### (4) 専門職を希望している実習生と一般企業を希望している実習生の実習前における平均値の変化と前報との比較

表2-2、図2-1は、専門職への希望者と一般企業への就職希望者の実習前における平均値を表と図に示したものである。

専門職希望者の評価が一般企業希望者より高いものは、7項「心の平穏」、10項「身体的エネルギー」、17項「自己の行動に対する意見評価への反応」、18項「他者と自己との相違に対する寛容さ」、19項「学習への関心」の5項目であり、一般企業希望者の評価が高いものとしては、1項「自己理解」、2項「自尊心」、3項「失敗を恐れぬ勇氣」、4項「人に愛情を示す度合」、5項「人の愛情を受け入れる度合」、6項「自己公開性」、8項「他者信頼」、9項「願望」、11項「多能性」、12項「創造性」、13項「怒りの表現の仕方」、14項「敵意の受けとめ方」、15項「自己の思想の表現の明確さ」、16項「傾聴力」、20項「独立心」、21項「将来の展望」と、殆どの項目において一般企業希望者の評価が上まわっていた。

前報では6項「自己公開性」で一般企業希望者は、自己をやや出さない傾向にあり、有意水準5%で有意差が認められた。今回は、むしろ専門職希望者より評価が優れ、有意差は認められなかった。これは学生一人一人の意識の高揚、特に準備がある程度順調に進み、精神的にも安定してきたためではないかと思う。

#### (5) 専門職を希望する実習生と一般企業を希望する実習生の実習後における平均値の変化と前報との比較

表2-2、図2-2は、専門職への希望者と一般企業への就職希望者の実習後における平均値を表と図に示したものである。

専門職希望者の評価が一般企業希望者より高いものは、1項「自己理解」、10項「身体的エネルギー」、18項「他者と自己との相違に対する寛容さ」であった。

一般企業希望者の評価が上まわっているものとしては、2項「自尊心」、3項「失敗を恐れぬ勇氣」、4項「人に愛情を示す度合」、5項「人の愛情を受け入れる度合」、6項「自己公開性」、7項「心の平穏」、8項「他者信頼」、9項「願望」、11項「多能性」、12項「創造性」、13項「怒りの表現の仕方」、14項「敵意の受けとめ方」、15項「自己の思想の表現の明確さ」、16項「傾聴力」、17項「自己の行動に対する意見評価への反応」、19項「学習への関心」、20項「独立心」、21項「将来の展望」と、21項目中18項目にわたり評価が高く、4項「人に愛情を示す度合」では、実習園の先生方に優しく見守られ、励まされ実習するうちに、情緒も安定し、子供を心から敬い、愛する感情が高まり、有意水準5%で差が認められた。

20項「独立心」では、実習させて頂けるといふ感謝の気持が、実習の全ての場面でより積極的に係わる結果につながったのではないだろうか。精神的にも安定し、常に自分自身を見つめながら充実感を持つことができたのであろう。有意水準1%で有意差が認められた。

以上、今回の調査では、一般企業希望者の評価が優れており、前報6項「自己公開性」、8項「他者信頼」、10項「身体的エネルギー」、11項「多能性」について、一般企業希望の学生は専門職希望の学生より評価が低く、5%水準で有意差が認められたが、今回は認められなかった。

これは前報の結果が、平成4年度夏期保育実習事前指導に活かされ、学生それぞれの意識の高揚が計られたことが、何らかの影響を与えたのではないかと考えられる。それに加えて、最初から一貫しと続けた姿勢としては、保育実習を保育資格取得のための必須科目であるという捉え方でなく、一般企業希望者であっても、実習中は「よりよい保育者になる」という強い意思と覚悟をもって自ら実践すること。その結果が保育資格に繋がるといふ姿勢をとった事も何らかの影響を与えているのではないかと思う。

## 要 約

1. 実習生の実習前後の意識の変化を示し、大まかな意識の傾向をみた。
2. 専門職に就職を希望する実習生と一般企業へ就職を希望する実習生とに分け、専門職を希望する実習生の実習前後の意識の変化を示した。
3. 一般企業を希望する実習生の実習前後に

における意識の変化を、前報「他者信頼」に注目して示した。

4. 専門職を希望する実習生と一般企業を希望する実習生の実習前における意識の差を、前報「自己公開性」に注目して示した。
5. 専門職を希望する実習生と一般企業を希望する実習生の実習後における意識の差を、前報「自己公開性」、「他者信頼」、「身体的エネルギー」、「多能性」に注目して示した。以上に基づいて結果の要約は以下の様である。

(1) 7項「心の平穏」について、実習後評価が上がり5%で、有意差が認められた。また、9項「願望」について、実習後評価が上がり1%で有意差が認められた。

(2) 1項「自己理解」について、実習後評価が上がり、5%で有意差が認められた。

(3) 7項「心の平穏」について、実習後評価が上がり5%で、有意差が認められた。また、9項「願望」についても、実習後評価が上がり5%で有意差が認められた。

「他者信頼」については、前報では実習後、その評価が下がり、5%で有意差が認められたが、今回は認められなかった。

(4) 21項目中16項にわたり、僅かではあるが、一般企業希望者の評価が専門職希望者の評価より上まわっている。また、前報では「自己公開性」について、一般企業希望の学生は、専門職希望の学生より評価が低く、5%で有意差が認められたが、今回は認められなかった。

(5) 4項「人に愛情を示す度合」について、一般企業希望者の評価が上まわり、5%で有意差が認められた。更に、20項「独立心」については、一般企業希望者の評

価が上まわり、1%で有意差が認められた。

「自己公開性」,「他者信頼」,「身体的エネルギー」,「多能性」については、前報では専門職希望の学生より評価が低く、5%で有意差が認められたが、今回は認められなかった。

#### 参考文献

- (1) 井上肇・小林一編著、1989:「保育所保育実習必携」、川島書店 p.43~44, 180, 189~199.
- (2) 教育・保育実習を考える会編, 1981:「幼稚園・保育園実習の常識」, 蒼林書店 p.12~19.
- (3) 土方康夫著, 1988:「保育とは何か」, 青木書店, p.30~37, 238~250.
- (4) 岡部茂・井上肇編, 1990:「幼児教育・保育実習」, 福村出版, p.11, 69, 74, 75~83, 120~129.
- (5) 浦辺史・矢戸健夫・村山祐一編, 1991:「保育歴史」, 青木書店, p.198, 242, 245~247.
- (6) 仲原晶子・武安宥編著, 1992:「かかわりの教育」, 福村出版, p.35, 59~86, 99~113.